



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2021年
10月7日
発行

第107回 「加速する環境投資」

～高まる水素への期待感～

初めに

温暖化は人類共通の課題です。各国共、CO2の排出削減に力を入れています。このCO2削減について期待されているのが水素です。CO2を発生させないことからクリーンエネルギーと言われています。今回は水素について考えます。

水素が期待されるわけ

水素が期待されるわけは主に2つあります。燃焼時にCO2が発生しないこと。もうひとつは、泥やごみなどあらゆるものから生成できるため原材料が豊富であることです。

日本企業と水素

日本で水素と言えばトヨタでしょう。早くから水素に注目し、水素自動車『ミライ』を送り出しました。先日行われた24時間耐久レースでは豊田社長自らドライバーの1人として参加、見事に完走しました。余談ですが、こうした夢を載せて走るというのが日本企業の良いところだと思います。なお、岩谷産業、三井物産、エネオスなども水素に力を入れている企業です。

砂漠を水素基地に

アフリカでは壮大なプロジェクトが進行中です。アフリカで太陽光など再生可能エネルギーを用いてグリーン水素を製造し、同じくCO2を発生しないアンモニアなどと一緒にパイプラインや船で欧州に輸出する、というものです。EUの執行機関である欧州委員会は、2020年の「水素戦略」でアフリカ北部をコスト競争力のある潜在的供給元と位置づけました。モロッコ、エジプト、チュニジア、ナミビア、南アフリカなどがこの事業に乗り出す見込みです。

アンモニア

このように、水素は有効な温暖化対策として期待されていますが、欠点もあります。非常に軽量なため、貯留や輸送が難しいことです。この欠点を補うのがアンモニアです。燃焼時にCO2を発生しないことに加え、水素より取り扱いが容易なためです。中国では国有造船大手の大連船舶重工、韓国ではサムスン重工業などがアンモニア燃料船の開発に着手している模様です。日本では今治造船がアンモニア燃料船の建造に取り組んでいます。今治造船は海外の海事機構と連携して、アンモニア船のルール作りで先行したい考えです。

今後も環境投資に注目

ここまで紹介してきましたが、各企業は温暖化をビジネスチャンスとみて積極的に投資しています。こうした企業の前向きな動きは注目です。

祝ノーベル賞！

今年のノーベル物理学賞は真鍋淑郎氏が受賞しました。テーマはこのレポートでも取り上げた地球温暖化です。この真鍋氏の偉業が温暖化対策に大きな貢献となることを願っています。



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。